令和３年３月２１日（日）、新型コロナウイルス感染防止対策の一環で卒業生のご家族は参列できませんでしたが、大西英男（おおにし　ひでお）国土交通副大臣、奥島高弘（おくしま　たかひろ）海上保安庁長官を迎え、本科船舶運航システム課程第５７期生、航空課程１９期生、情報システム課程２８期生、管制課程２期生、海洋科学課程２９期生、総勢３６６名（うち女性５４名）の卒業式を挙行しました。

前日まで雨予報が続いていましたが、分列行進を実施したいという学生達の熱意が通じたのか、当日は予報を覆し、分列行進を実施することができました。

分列行進

卒業式では、江口　圭三（えぐち　けいぞう）学校長から、卒業生への式辞として「当庁の任務は、「海上の安全と治安の確保を図る」ことです。四面環海の我が国において、その任務は誠に膨大で厳しいものです。しかし、海上において我々は、最初で、かつ、最後の砦となります。必ず、やり遂げなければなりません。任された仕事に励み、仲間との協力関係を大切にし、自己研鑽を積む、その結果、一人の海上保安官として社会に貢献することになります。卒業生諸君はそのための基礎的素養をしっかりと磨いてきました。自信をもって、現場に赴いて欲しい。」との激励の言葉を送られました。

江口学校長　式辞

また奥島長官からは、「海上保安機関の役割を表す言葉に「the first responders and front-line actors」という言葉があります。この言葉は「現場で発生する様々な事案に真っ先に駆け付け、最前線で対応する」ということを意味しています。私はこの言葉こそが海上保安庁の「決意」をまさに表した言葉であり、また、国民の皆様が海上保安庁に期待する不変的な役割であると考えています。諸君もこの決意を胸に、最前線での様々な困難に立ち向かい、立派にそ

の任務を果たしてほしいと思います。」と訓示があり、大西国土交通副大臣からは、「今まさに皆さんは卒業式の日を迎え、海上保安官となる夢は実現しました。「夢求めて、生きる。」この言葉にあるように、次は国民から信頼され、愛される海上保安官になるという夢を求めて、大いに活躍されることを期待しております。」と祝辞をいただきました。

大西国土交通副大臣　祝辞

奥島長官　訓示

最後に卒業生代表の田山　望（たやま　のぞみ）【配属先：第二管区宮城巡視船くりこま通信士補】学生が、10 年前に発生した東日本大震災の被災者の方々に思いを寄せ、「当時は周囲の大人に守ってもらうだけの存在だった自分たちが今度は、少しでも困っている人たちに寄り添ったの心情に寄り添い、力になれる海上保安官になりたい。」と抱負を述べ、「ここがゴールではなく、ここからがまた新たなスタートです。この海上保安学校で培った知識を糧に、信頼できる仲間たちとともに、いつでも海上保安官として、正義仁愛の信念を胸に、各々の目標に向かい、全力で職務を全うすることをここで、皆様にお誓い申し上げます。」と力強く答辞しました。

答辞　卒業生代表　田山学生

式典が終了するのを待ってくれていたかのように、式場から校旗が退場するや否や、とどろくような音を立てた雨が降りはじめ、学生見送りは雨天要領となりましたが、卒業生は教舎の廊下に並んだ在校生や教職員の温かな拍手で見送られ、晴れやかな表情で一路現地へと飛び立って行きました。

校旗退場

卒業生見送り

【 卒業式場面集 】

式典中の学生の様子

卒業証書授与